

事務事業マネジメントシート(平成28年度実績と平成29年度計画)

平成29年 5月22日更新

事務事業名		ことば教育推進事業				☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連				
総合計画体系	政策	3	教育の健康				所属部	教育委員会事務局教育部	課長名	右田 純司
	施策	9	義務教育の充実				所属課	学校教育課	担当者名	嶋崎 佳子
	施策の柱	31	学力の向上				所属班	学務指導班	(内線)	2203
予算科目		会計一般	款10	項1	目3	事業連番11582	根拠法令	成果優先度評価結果 : ④ コスト削減優先度評価結果 : ⑨		
終了、開始年度		☐ 28年度で終了 ☐ 28年度から開始				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 24 年度) ☐ 期間限定複数年度 (~ 年度)			

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	市民提言による本事業は、学力向上をめざす授業改善のための基礎的、基本的な知識・技能を習得するために、ことば教育を学校教育に導入するものである。児童生徒を取り巻く言語環境は、近年マスメディア等の影響でよい環境とは言い難い。全面実施されている新学習指導要領では、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る事が強調されている。そのため、本事業を通して、児童の思考力、判断力、表現力等が育まれることが期待できる。
【業務の流れ】	学校生活の様々な場面で、「ことば」を意識した教育活動を実践していく。
【主な予算費目】	報償費、消耗品費、印刷製本費、旅費
【意見や要望】	児童生徒によるあいさつや言葉遣いに対する市民の関心は高い。

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分
① 手段(主な活動) 28年度実績(28年度に行った主な活動) (DO) 児童の思考力、判断力、表現力等を育くむための専門家(元アナウンサー)による授業、ポエムコンクールの実施並びに日本語教育先進地視察を実施した。		29年度計画(次年度に計画している主な活動) (PLAN) 小中学校の教育活動の中で言語活動として朝の活動及び教育課程に位置づけられた国語を中心に、様々な教科領域に位置づけて実践する。
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由
→ ア ことば教育実施回数 週1回	回	事業は28年度と同様に実施するが、ことば教育先進地視察研修を開西方面で計画していることに伴う旅費の減額。
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等		② 対象指標(対象の大きさを表す指標)
小中学校児童生徒		→ ア 児童生徒数 人
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		③ 成果指標(意図の達成度を表す指標)
児童生徒の言語活動の向上に資する。		→ ア 言語環境の整った児童生徒の割合 %
*③成果指標設定の理由と29年度目標値設定の根拠		総トータルコスト
言語環境が整うことで、児童が居心地のよい学校となることから、言語環境の整った児童の割合とした。		全体計画 ~ 年度
		0

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	26年度 実績(決算)	27年度 実績(決算)	28年度 目標(当初予算)	28年度 実績(決算)	29年度 目標(当初予算)	30年度 予定	31年度 見込	32年度 見込
① 活動指標	ア 回		0	0	35	0	35	35	35	35
② 対象指標	ア 人		6,040	0	6,358	6,365	6,500	6,670	6,820	6,970
③ 成果指標	ア %		0	0	100	100	100	100	100	100
投 入 費 量	財 源 内 訳	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		繰入金	千円							
		一般財源	千円	532	546	889	686	875	1,093	1,093
	(A) 事業費計		千円	532	546	889	686	875	1,093	1,093
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0
		正職員従事人数	人	0	1	2	1	2	2	2
人 件 費	延べ業務時間		時間	0	240	30	240	30	30	30
	(B) 人件費計		千円	0	891	119	0	119	119	119
	トータルコスト(A)+(B)		千円	532	1,437	1,008	686	994	1,212	1,212

事務事業名	ことば教育推進事業	所属部	教育委員会事務局教育部	所属課	学校教育課
-------	-----------	-----	-------------	-----	-------

2 評価の部 (CHECK)

*原則は28年度の事後評価、ただし複数年度事業は28年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①28年度目標達成度評価	☒ 達成した 各学校で「ことば教育」担当者が選任され、先進校視察結果等を活用しながら、言語活動に視点をおいた活動が推進されている。 ☐ 達成しなかった ⇒ 【理由】
	②29年度目標達成見込み	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 「ことば教育」に関する活動の場が、教育課程にも位置づけられてきており、次年度もより一層深まりのある取り組みを行うことが十分に推察できる。 ☐ 目標達成は厳しい ⇒ 【理由と対策】
有効性評価	③成果の向上余地	☒ 向上余地がある ⇒ 【理由】 前年度の広島県呉市視察研修に引き続き、本年度は佐賀県鳥栖市視察にて、「言語活動」に関する研修を深めた。研修成果を合志市の小中学校の取り組みに活かすことで、成果が向上すると考えられる。 ☐ 向上余地がない ⇒ 【理由】
	④類似事業との統廃合・連携の可能性	☒ 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒ 【理由】 ☒ 統廃合・連携ができない ⇒ 【理由】 「ことば教育」も「学力向上」を目指したものであるが、市教育委員会の重点取り組み事項として取り組むことで意識の高まりが得られる。 ☐ 他に手段がない ⇒ 【理由】
効率性評価	⑤事業費の削減余地	☒ 削減余地がある ⇒ 【理由】 【前年度内容】回数を削減していくことは可能であるが、平成28年度から取り組む小中一貫制度に大きな役割を果たすことを考慮すると削減は難しいと考えられる。 ☐ 削減余地がない ⇒ 【理由】
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒ 【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒ 【理由】 学校教育活動の一環として実施している事業であり、「ことば教育」は重要であり削減できない。教育課程の一部であり、外部委託はできない。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒ 【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒ 【理由】 児童・生徒に関わるものであり、一部の受益者には偏っていない。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化	☐ 見直し余地がある ⇒ 【理由】 ☒ 役割分担は適正である ⇒ 【理由】 市内の小・中学校に対しての事業であり、その取り組みについては教師主導でおこなう専門性が必要なため、地域の方々には補佐的な役割での参加であれば可能である。

3 評価結果の総括 (CHECK)

新学習指導要領では学校教育活動全体にわたって「言語活動」の充実があげられている。「ことば教育」の実践により、教師、児童生徒、保護者が「ことば」をより一層意識した教育に取り組むことができている。豊かな心や表現力の育成に欠かせないものであり、学力の確実な定着にもつながっている。

4 今後の方向性 (事務事業担当課案) (ACTION)

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可 ☐廃止 ☐休止 ☐目的再設定 ☐事業統廃合・連携 ☐事業のやり方改善（有効性改善） ☐事業のやり方改善（効率性改善） ☐事業のやり方改善（公平性改善） ☐現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）		(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策																								